

## 令和3年度 学校経営目標と学校評価の推進

本校は「開拓者の精神」を建学の精神とし、「整々たる校風」のもと、知・徳・体のバランスのとれた全人教育の視点に立ち、心豊かに逞しく生きる人間教育を志向した「創成の教育」を推進してきた。創立から半世紀が過ぎ、「進化する創成高校」を今年度（2021年度）から「SOSE Iシステム3.0」とし、コース変更も行いました。全教職員が「学校経営方針」のもと、学び続ける教師集団として「創成の教育」の更なる向上に努める。

※ 評価：5段階（年度末評価）

高い ← 5・4・3・2・1 → 低い

1 学校運営	校長の経営方針	分掌・センター等の関連項目・主な取組	総括（各分掌・センター等の反省会議資料から管理職で総括を実施）	評価	関係分野
	<p>①校内の組織力を生かす。学年・分掌・教科等の各組織において緊密な連携のもとに迅速に情報を共有し、機能的且つ効果的な教育活動を推進する。</p> <p>②「教育構想企画室」においては学校経営方針、及び重点事項、学校評価に関する事項、今後の展望について未来志向に立った課題を検討する。</p> <p>③教育環境を整える。ICT（情報通信技術）環境と機器の整備を計画的に行い、実施に当たっては効率化と情報セキュリティの強化を図る。</p> <p>④危機管理対応については本校のマニュアルを基本に、迅速に関係機関と連携し、適切に対応する。</p> <p>⑤国際理解教育の推進。グローバル化に伴い、交換留学、海外語学研修等、国際交流を推進し、異文化理解と自国文化、SDGs等への関心を高める。</p>	<p>① 校内の諸行事や所轄業務の遂行に当たり、各組織と連絡・調整を図り、円滑に企画運営する。</p> <p>②校長の諮問機関として、本校の将来構想を含め、諸課題について検討する。</p> <p>③ICT委員会を中心に、情報機器の環境整備に努め、生徒及び教職員の活用環境の向上に努める。</p> <p>④多様化・深刻化する危機に備え、適切に対応するために、危機管理の意識を全教職員が共有し、対応する。</p> <p>⑤交換留学や語学研修等の諸行事、ユネスコスクール、SDGsを通して、国際理解教育の推進を図る。</p>	<p>① 昨年同様、コロナ禍の下、様々な行事に中止・変更を余儀なくされたが、その中で諸関係分掌の協力により、できる限り運営できた。</p> <p>② 残念ながら、実質的には会議が起こせなかったが、「学校課題」を明確にして各委員は各分掌等で「SOSE Iシステム3.0」の推進に務めた。</p> <p>③ 今年度からのタブレット増加に合わせてWifi機器の更新がなされ、また、コロナ禍の中での「オンライン授業」も研修を重ねて各教員もスキルを高めて実施できた。</p> <p>④ 新型コロナウイルス対応では、共通意識をもち、一丸となって取り組み、感染拡大や大きなクラスターが発生することなく、休校期間も最小限で教育活動が実施できた。</p> <p>⑤ 前年度の反省を踏まえて、海外ではなく、国内での「語学研修合宿」を行った。ユネスコスクールの精神をもとにSDGsの活動を積極的に教科等で取り組んだ。（GLコースの最後の「語学研修」を山梨県河口湖畔で行った。）</p>	4  2  4  4  3	校務運営 会議  管理職  情報・ICT センター  管理職 保健環境  国際教育 ユネスコ
	<p>①新学習指導要領に基づき、本校の教育方針に則った教育課程を編成する。</p> <p>②各教科は、組織的に基礎学力の定着と発展的な学習の指導法を探求し、学力向上に繋げる。</p> <p>③教師は、生徒個々の実態を把握し、能力・適性に応じた授業実践に努め、授業管理を徹底する。</p> <p>④生徒の自立的な学習意欲を促し、主体的な「学び」へとつなぐ学習方法を工夫し、学力向上を図る。（アクティブラーニング・マネジメントノートの活用）</p> <p>⑤授業の短縮やカットは最小限に止め、授業時数の確保に努める。</p>	<p>① 生徒の能力・適性・進路を把握しながら、新教育課程の編成に努め、観点別も加えてシラバスの作成を行う。</p> <p>②生徒が基礎学力を定着させ、自主的に学習する態度を育成するとともに、発展的な学習の指導法を探求させる。</p> <p>③生徒の実態を把握するとともに生徒のやる気を起こさせる授業態勢づくりに努め教員の実践的な指導力の向上を目指す。</p> <p>④生徒に興味・関心を抱かせる授業内容を工夫改善し、生徒の主体的・自立的な学力向上を図る。</p> <p>⑤学校行事の精選を図り、授業時数の確保に努める。</p>	<p>① 令和4年からの新教育課程の編成を行った。また、観点別評価に向けての新1年生のシラバス作成も教科内・教務部・有志の教員で精力的に検討し実施までにこぎつけたことは特筆に値する。</p> <p>② コロナ禍の中、ICTを活用した遠隔授業等に向けて全教員が積極的に取り組み昨年以上の成果を上げたが、「自分で考える」「みんなで学ぶ」「なんでもする」の目標に向けては、まだまだ共通理解が必要である。</p> <p>③ 授業評価を「外部機関」に委託して実施。生徒が教員評価及び自分の授業を受ける姿勢について考える良い機会となった。今後は、教員自身がさらに「授業改善」に向けて研修が必要であることを強く感じた。</p> <p>④ コロナ禍が2年目を迎え、生徒自身が自ら学ぶ方法について従来より必要性を感じ、また、教員からもZOOMなどを使って積極的に教材開発に目をむけた取組が見られた。外部研修にも自ら出向く姿勢も出て来た。</p> <p>⑤ コロナ禍の影響を受けたが、学校行事が実施できないものもあり、また、オンライン授業のカウントもあり、授業時間はある程度確保できた。しかし、進路指導面では、まだまだ授業内容の充実が求められる。</p>	4  4  4  4  4	教務 各教科  教務 進路指導 ICT  教務  教務 進路指導 ICT  管理職 教務

3 進路指導				
<p>① 「SOSEIシステム3.0」の推進のもと、生徒の進路目標を早期に設定させ、3カ年を見通した系統的な指導を行い、進路意識を高め、個々の生徒の進路実現を図る。</p> <p>② 生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、ワンランク上を目指す進路指導に努める。</p> <p>③ SAGコースの進路マネジメントを有効に活用し、国公立大学・難関私立大学への現役合格を達成するよう進学指導を推進する。</p> <p>④ 生徒の希望進路に応じて検定などの資格を習得させ個別指導を丁寧に行う。</p>	<p>① 各学年が進路シラバスのもと、3年間を見通した進路指導を系統的に行い生徒の多様な目標の実現を支援する。</p> <p>② 生徒の可能性を最大限に伸ばし、ワンランク上を目指すため、学年、教科、分掌との連携を密にして、きめ細かな進路指導を推進する。</p> <p>③ SAGのコースの特性を踏まえて国公立大学・難関私立大学への合格を目指し模試・講習の企画・運営・分析などを綿密に行い、生徒の進路指導を推進する</p> <p>④ 希望の進路に応じて、丁寧な個別指導で検定等の資格を取得させる。</p>	<p>① 3年生については、学年と連携を取り、多くの進学希望者へのサポートを共通理解を合い言葉に「生徒のワンランク上の進路実現」を支援することに力を注いだ。その結果、開校以来の進路実績となった。</p> <p>② 国公立大学では過去最高の現役31名の合格者となった。また、私立大学でも多くの挑戦を生徒が行い、過去にない実績となった。しかし、まだまだ生徒が伸びる可能性をもっており、さらなる学年・教科等の連携が必要である。教科の縦の連携が取れていないと、学年ごとに指導に差が出る。コロナ禍という制約の中で「SOSEIシステム3.0」に基づいた指導を各学年が共に取り組むことが重要である。</p> <p>③ SAGのコースが2年生では最後の「学年」となったが、コロナ禍もあり語学研修は「国内コース」の設定など苦慮した。各学年ともに「生徒の実態」を踏まえた検討会などを計画的に実施することが重要である。進学希望者が多く、内容も多岐にわたり、教員のサポートのあり方の研修が急務である。</p> <p>④ 特に「英検」を強く勧め、受験に向けてのサポート体制も年間を通じて行うことは必要である。今年度の合格者数は、155名であるが、さらに積極的な受験を生徒に呼びかけることが必要である。</p>	3	進路指導 各学年
			4	進路指導 3学年団
			4	進路指導 国際教育 特進選抜
			4	各教科 英語 数学 情報商業
4 生活指導・教育相談				
<p>① 生徒の規範意識を高め、規律正しい生活習慣の定着を図る。身だしなみや挨拶・時間の管理・集団生活におけるルールやマナーなど、全教職員で一致した指導に当たる。</p> <p>② 自他の生命を尊重し思いやりの心を育み、いじめや体罰のない学校を推進する。</p> <p>③ ボランティア活動、SDGs活動等を積極的に奨励する。</p> <p>④ 生徒に寄り添う指導、向き合う指導を通して自律的な生活態度を育成し、不祥事故を未然に防止する。言葉の暴力・威嚇的な指導は避ける。</p>	<p>① 服装や挨拶、集団生活におけるルールやマナー等を守らせ、規律正しい生活習慣を、教職員一丸となって指導を行う。</p> <p>② 「命の尊さ」をしっかり認識させ、相手を思いやる心を育み、体罰やいじめのない楽しく充実した学校生活を推進する。</p> <p>③ 奉仕の精神を育み、積極的にボランティア活動に参加する姿勢を養う。</p> <p>④ 交通事故や自転車事故等の負傷事故防止を行うと共に、教育者としての言葉遣いや教育姿勢を深める研修を行う。</p>	<p>① 全教員へ呼びかけ声掛け活動をお願いしている。指導部通信の他、クラスシーを活用して生徒、保護者への呼びかけを行っている。やや女子のスカート丈が上級生で守られていなかった。</p> <p>② SNSを介したトラブルが絶えない。学校行事等ができない中で、お互いをよく知る機会を増やす必要がある。教護協会や北警察署の協力のもと防止活動に努めたい。特に家庭との協力を図るためにも細かな情報交換を実施していく。</p> <p>③ コロナ禍に伴い、各種の行事が中止となった。また、部活動で施設訪問なども実施できなかった。校内では独自にSDGs活動も行われ、ペットボトル回収やコンタクトケース回収などが実施されて良かった。</p> <p>④ 生徒や保護者との距離を一程度保ちながらコミュニケーションをとることで此方の意図を汲んでくれるようになるが、生活指導・頭髪指導などでのクレーム、通学マナーでの外部からの生徒への指摘もあった。今後も、事故防止に努める啓蒙活動推進。より安全な乗車マナーは日常的に生徒へ直接的呼びかけを登下校時に呼び掛けていく。</p>	3	生徒指導 各学年
			3	生徒指導 保健環境
			3	特活指導
			3	生徒塩津 教育相談
5 特別活動・部活動等				
<p>① ホームルーム活動や学校行事、生徒会活動や委員会活動に生徒を積極的に参加させることで、学校生活の充実と活性化を図る。</p> <p>② 部活動(含む同好会)を奨励し、部活動への加入率を高める。</p> <p>③ 強化指定部は、特に学校を代表する部としての自負心を持たせ、部員はその自覚のもとに全道、全国大会への進出を目指す。</p> <p>④ 「朝の10分間読書」を生涯教育の一環として位置付け、読書活動を推進する。</p>	<p>① 生徒会行事を中心に、生徒会や委員会等の活動の活性化を図る。</p> <p>② 学習と部活動の両立を目指すとともに、活発な部活動を推進する。</p> <p>③ 強化指定部は確実に実力を付け、全道・全国で活躍できる選手の育成に努める。</p> <p>④ 読書指導を推進し、図書館の利用拡大と読書力を高めるとともに、学習活動の推進に努める。</p>	<p>① コロナ禍で行事がほぼ中止になった。しかし、2年ぶりの学校祭は工夫をして実施できたことは特筆に値する。</p> <p>② 部活動も何度もコロナ禍で活動に制約があったが、高体連・高野連・高文連ともに、ほぼ実施され、生徒も充実感ももてた。しかし、コロナのために急遽、出場できなかった生徒もいたことは事実である。残念ながらやや部活動への入部者数が減少していることが心配である。*そんな中で文系部活動で3つの部活が全国切符を得たことは特筆に値する。</p> <p>③ 強化指定部が3つになったが、陸上部が女子駅伝で全道で2年連続の準優勝は素晴らしい。サッカー部も100名の部員であと一步である。野球部も全道目指して取組を強化してほしい。</p> <p>④ 今年から1学年と2・3学年の朝読体制が変わったが、おおむね生徒に浸透し実施されていた。さらに教員に対して朝読の意義や理念を啓蒙する必要性を感じた。朝読4原則「みんなでやる」「毎日やる」「好きな本でよい」「ただ読むだけ」の原点に立ち返り、朝の習慣の定着化、読書のきっかけ作りをさらに推進していく。</p>	4	特活指導
			3	特活指導 各部活動 各学年団
			3	特活指導 各部活動
			3	図書 各学年団

6 保健・安全指導				
①学校保健計画に基づき、保健管理と保健教育を適宜指導する。	①保健教育と保健管理の諸活動を通して生徒の健康の保持増進を図り、自己管理能力を育成する。	① コロナ渦における学校生活の過ごし方を生徒に周知した。具体的な事項(黙食、手指消毒、体温測定)を行うように生徒に呼びかけを繰り返し行った	4	保健環境
②日常の防火・防災意識を高め安全管理を徹底する。	②日常の防火・防災意識を高め、安全管理と安全避難の徹底を図る。	② 訓練用緊急地震速報を使用し、教室内での避難訓練を実施した。年間1回だったが教室内での避難訓練を実施することができた。	3	保健環境
③校舎内外の環境整備と美化に努め、施設設備・機器の保全に万全を期す。	③快適な学校環境をつくり、公共物愛護の精神の育成を図る。	③ 生徒会の委員会活動や野球部のボランティア活動などで通学路の清掃を実施、施設設備の保全では折りに触れ、生徒に呼びかけを行った。	4	特活指導
④生徒の心のケア等の健康管理については、担任は保健室、学年、教育相談センターが連携し、適宜、外部の専門機関との連絡を取りながら指導にあたる。	④生徒の心のケアには校内外の関係機関と連携して支援の充実を図る。また、アセスのデータ分析と改善方法の提案、心理教育の試行の取組をする。	④ 生徒の心の健康は、担任、教科担任、部活顧問などの日頃の生徒対応にかかっていることを今年も痛感した。アセスについては、センター員が分担して面談をした。今後はピアサポート研修を生徒会と共に取り組み、生徒同士の繋がりを学校全体で深める活動を実施していきたい。	4	教育相談
7 研究・研修				
①教師は日々自己研鑽に努め、公開授業や研究授業、生徒による授業評価・アンケート等を活用して改善に努め、教師としての資質や力量を向上させる。	①教師は、公開授業や研究授業を積極的に行い、アンケート調査等を謙虚に受け止めて生徒がわかる授業を心がけ、常に授業の工夫改善に努める。	① コロナ禍の影響で、公開授業や研究授業は中止した。生徒による教員評価・授業評価について11月末に実施。(外部業者による)きめ細かな指摘もあり大変参考になり、今後の授業に生かせるようにしたい。	3	管理職 教務
②校内研修体制を充実させる。また外部の研修会への参加や先進校視察を奨励し、研修内容を報告する。	②校内研修の内容を充実させ、教科・分掌・学年の自主的・自発的な研修を推進するとともに、教員の実践的な指導力の向上を目指し、主体的・意欲的な研修の推進に努める。	②次年度以降もコロナの影響が懸念される。いつ休校措置をとっても大丈夫なような準備が必要である。	3	教務 ICT
8 広報活動・募集活動				
①日常の教育活動が生徒募集活動に直結しているとの認識をもち、生徒・保護者の満足度を高める教育活動を展開する。	① 新しいコース制のスタートであり、あらゆる機会・手段を有効活用し積極的な広報活動に努める。	① 「SOSEIシステム3.0」の推進につとめ、1年生への「宿泊研修」からの取組などの紹介、「新生創成」のイメージを伝えた内容が浸透した結果、コロナ禍で厳しい経済状態の中でも本校への出願、入学者が予想を超えた。	4	入選対策 進路指導
②効果的な広報活動・募集活動を展開し、応募倍率の維持・増加を目指す。	②生徒募集の実質的な成果を上げるため、中学校及び塾と一層の連携強化を図る。	② コロナ禍であったが、学校説明会等へは予想以上に参加者があった。運営面でも「生徒が全面に出る」ことによって大きなイメージアップに繋がった。	4	入選対策
③学校HPを活用して生徒の活躍(学習・諸行事・部活動等)の様子をタイムリーに発信する。また、広報誌「ぷらたなす」、父母だより「ちょっといい話」、体文だより、学校案内「TRY」等の発行を通じて本校の教育を外部へ発信する。	③HPをとおして、生徒の学習活動や学校生活、部活動等を広く伝え、本校の効果的な広報活動に繋げる。	③ HPをリニューアルした。今まで以上に本校の魅力ある活動の広報に努めた。タイムリーな情報をきめ細かに発信することが重要である。入試の合格状況なども発信し、国公立大学の合格状況なども大きな力となり、最後の「入学手続き」に繋がったと思われる。	3	情報システム ICT
9 その他				
観 点	取組の概要	外部評価(意見・要望・改善事項)		
①教職員は高い倫理意識を持ち、法規・法令・服務規程を遵守しなければならない。	①教職員、特に教員は専門職としての倫理意識を高め、生徒指導に当たる必要がある。体罰の厳禁、心のケアの対応、金銭等の幅広い倫理感や服務規程についての研修が急務である。	①教職員に対して生徒、保護者から、体罰調査を実施し、特に「ことばの暴力」に対してはパワハラでもあり、十分に話し合い今後もっと生徒に寄り添った対応ができるように研修等を積み重ねていく必要がある。	3	管理職

<p>②教職員が互いに理解と信頼によって結ばれた協働体制の確立に努め明るい職場環境づくりを心がける。</p> <p>③教職員は、学校経営への参画意識を持ち、意欲と活力に満ち、熱意と使命感を持って業務を遂行する。</p>	<p>②組織の一員としての意識や協働体制の意義を再確認する研修と、創成高校の長期展望や創成でやる気を起こす「生き甲斐」を持たせる必要がある。</p> <p>③教職員が学校経営の「参画意識」を高め、本校の長期的展望を持って、時流に応じた取り組みの方向性を具現化する必要がある。</p>	<p>②新型コロナ感染予防対策を中心に、例年に比べてもより多くの会議・打ち合わせを設け、生徒や教職員の身を守り、その中でも学校教育活動を効率的に実施できるよう職員の共通理解と結束を高めることができた。</p> <p>③校長の諮問機関として「創成プロジェクトチーム」を「希望者対象」に募集をし、学校づくりに向けての提言を校務運営委員会に提出、さらに職員会議で審議して次年度に向けて出発した。大いに参画意識が高まったと考える。</p>	<p>4</p> <p>4</p>	<p>管理職</p> <p>管理職</p>
<p>10 本校の近隣3町内会と連絡協議会を実施し、町内会から生徒に関する率直な意見を聴取する。</p>				
<p>観 点</p> <p>①生徒の通学状況及び下校の様子 ②自転車通学のマナーの様子 ④ 服装や身だしなみの様子</p>	<p>取組の概要</p> <p>① 毎年6月に実施し、令和元年度は通算して27回目で昨年はコロナ禍で実施できなかった。 ②参加者は、町内会、父母の会役員、生徒会役員及び本校の教職員の約20数名で実施している。</p>	<p>外部評価（意見・要望・改善事項）</p> <p>① 新型コロナ禍の中で、今年度も年度当初より実施が厳しく、実施できなかった。 ② 生徒と地域の方々との貴重な会でもあり、今後は別の企画で実施等を考えたい。</p>		
<p>11 保護者懇談会（3年生は7月下旬から8月上旬・1・2年生は9月以降）を実施し、学校・家庭との連携を一層図りながら学習指導・生徒指導の充実を図る。</p>				
<p>①保護者と担任との意見交流 ②家庭及び学校での生活の在り方 ② 家庭と学校との情報の交換及び強化等</p>	<p>① 3年生は「夏季休業間前」に実施、1・2年生は9月以降実施。100%実施が目標。2者懇談及び3者懇談（生徒・保護者・担任）を行っている。進路相談や生活相談など広範囲に生徒理解を進め</p>	<p>① 昨年度から3年生と1・2年の実施時期をずらして、より目標設定がしやすい時期に行い、今年度も100%実施。特に1・2年生には適切な時期であった。 ② 科目選択、コース確認などコロナ禍ではあったが理解が深まって良かった。</p>		
<p>12 保護者授業参観日（検討中）を実施し、生徒の実態や授業の様子・部活動の指導の在り方などを見学するなどして、本校へのよりよい理解を得る。</p>				
<p>①授業や部活動等の参観 ②学校教育への関心度の契機</p>	<p>①平常の授業及び部活動の様子など参観対象である。 ②参観者からは、生徒の様子や教員の教育活動など率直な感想や意見が寄せられている。</p>	<p>①残念ながらコロナ禍で実施できず。今後は「開かれた学校」の推進を一層進めたい。 ②残念ながら実施できず。生徒の情報はClassiやホームページで積極的に流した。</p>		
<p>13 「よりよい授業」をするために、生徒による授業評価アンケートを全教員・全科目を対象として実施し、より効果的な授業改善を図る。</p>				
<p>〈生徒の学習への取組〉 ①授業内容の理解、約束事の遵守 ②授業への集中、教材の準備 ③課題や小テストなどの提出等</p> <p>〈教員の授業改善〉 ①教材の研究や教材の工夫 ②板書や話し方、説明の工夫 ② 興味や関心、質問の工夫等</p>	<p>① アンケートは年間に2回（6月初旬と12月）実施が目標、生徒が受けている授業を対象とする。授業担当者に対する評価、授業を受けている生徒の自己評価、授業に対する興味・関心など生徒に評価させている。 ② 生徒に「授業の良い点や改善して欲しい点」などを率直に生徒に評価させる。アンケート結果については、教員側のより生徒に「授業改善に向けた内容」を発信する。</p>	<p>① 年2回実施予定であったが、12月に「全生徒対象」（業者対応）で実施した。生徒の自己評価、授業者に対する評価。意見などをアンケートで実施したが、多くの生徒の意見が出て、大変良かった。教員には ②「授業の良い点や改善してほしい点」などについて多くの意見が生徒から寄せられ、すべて各教員に示して授業改善や生徒理解の一助として活用してもらった。大変好評であった。</p>		
<p>14 保護者及び地域社会に開かれた広報活動を推進し、本校に対する理解を促進する。</p>				
<p>①適宜、適切な情報の提供 ②学校理解の促進 ③学校の門戸開放 ④学校及び家庭等の地域の教育力の向上等</p>	<p>①札幌創成高等学校ホームページの更新を適宜・適切に行い、常に新しい情報により本校の教育活動への理解と協力を求め情報宣伝活動に努めている。 ② 学校祭一般開放などにより、保護者・地域社会へ積極的な学校公開に努めている。*校外展や各部活動ごとに報告会等を実施。</p>	<p>① 新型コロナ関係も含めて、学校からの情報提供に務めた1年であった。多くの面で学校の対応を理解していただいた。 ②学校祭も含めて、学校開放の行事は全て中止となった。HPやClassiで保護者へは情報提供に努めた。 *文化系部活動の「校外展」吹奏楽部の「定期演奏会」太鼓部の「全国大会出場報告会」よさこい部の「オリンピック・マラソン大会歓迎会」等</p>		